

日本外交史の特質

ジャーナリスト 清澤 洌

今回、夏季特別企画として戦前の経済倶楽部講演からジャーナリストの清澤洌氏の講演を掲載します。清澤氏は1890年に生まれ、1945年に亡くなっています。17歳で渡米し、様々な職業を経験。ワシントン大学に学んで後、邦字新聞において「信濃太郎」名で健筆を揮いました。帰国後は朝日新聞記者を経てフリーのジャーナリストになりましたが、一貫して自由主義的な論調の記事、著作を発表し続けました。代表作に『暗黒日記』があります。経済倶楽部においても何度か登壇していますが、今回の講演は亡くなる4年前のものです。

(用語は一部を現在の表記に変えています)

三浦さんから先生呼ばわりされて、ずっと足の先から頭のほうまで悪感がいたしました。(笑) 信州へ行って風邪を引いたせいばかりでもないようであります。

外交史を書いたからその感想を話せという御命令でありました。これは私には少し迷惑な話であります。とにかく過去一か年ばかり苦勞をして書き上げたものさわりを一時間か一時間半で聴き取ろうというのが、そもそも相当に虫のいい注文である。

そのほかに出版元である東洋経済新報社ともデリケートな関係が有しまして、今日お話をあまり巧くやりますと「あの本の内容は大概のことを聴いてしまったから買う必要がない」というふうにお考えになる不心得の方も(笑) ある

かもしれせんし、さればといつてあまり下手にやりますと、「あの程度のものなら買う必要はない」(笑) ということで、これまた営業妨害になりそうであります。そこで今日私に与えられた任務は、あまり巧くなく、しかしながらその購買力を減殺しない程度に下手でなく、ちょうど浅草なぞの見世物でよくやる、良いところを出して、これからという時にさらっと幕を降ろして客を呼び込む、あれが今日私がしようとするところであります。

果たして左様な外交的手腕が外交史を書いた私にありますかどうか、私は実業家でなく批評家でありますから、そう巧くはいかないだろうと思いますが、巧くてもまずくても、ただの三円二十銭でありますから、どうぞ私のばかりで